

今、考える 災害への備え



もし災害が起こったら。そう考え、備えているものはありますか。梅雨時期を迎える前に、私たちが自然災害から身を守るための「備え」について考えてみましょう。

災害への備え、できている？

新聞やテレビなどで何度も言われている「災害への備え」の重要性。分かっているけれども準備をしていない人も多いのではないのでしょうか。

岡垣町では、平成25年の大雨による土砂崩れや平成21年の手野区の県道原・海老津線の冠水など、過去にさまざまな被害が発生しています。このような中で、まず大切なことは一人ひとりが災害を想定することです。災害経験者は、日ごろから災害発生時の対応などを意識しているようです。

皆さんも、いつ起こるか分からない災害を他人ごとと思わず、最低限の準備をしておきましょう。

非常持ち出し品の準備を

懐中電灯やヘルメットなどの避難に必要な道具や救急セット、貴重品などを、すぐに持ち出せる場所に準備しておきましょう。

非常食は、もし行政機能などが

経験者に聞く！「備え」の大切さ

—災害への関心、危機感が大切—

震災当時、私は神戸にある会社の社宅に住んでいました。ドーンと下から突き上げる音で目が覚め、震度6強の大地震を経験したのです。私が住んでいたところはひび割れ程度で、建物の倒壊など大きな被害はありませんでしたが、私が勤める会社の本社は神戸市の東部にあり、かなり被害を受けました。地震発生後は水道や電気、ガスなどのライフラインがすべて止まり、電気の復旧は約1週間と早かったものの、水道や都市ガスの復旧にはしばらく時間がかかりました。また3日間くらいはスーパーなどが閉まっていました。



あないよしのぶ
穴井義信さん(緑ヶ丘区)

1995年1月17日に阪神・淡路大震災を経験して以来、常に災害が起きたときのことを考え、必要なものを準備している。

このような経験から、災害への備えの大切さを痛感しました。とくに準備しておくべきと感じたものは、水とカセットコンロ、懐中電灯です。カセットコンロはある程度の調理などに対応できます。また懐中電灯は発電式でラジオ付きのものがあって良いでしょう。そのほかにも救急用品やマスク、下着などを非常用持出袋に備え、けがなどをしないようにスリッパやヘルメットも準備しています。食べ物の備蓄はあまり難しく考えず、缶詰めや乾パン、ビスケットなどが3日分程度あれば良いでしょう。

また震災のとき、実際に大きく揺れたことでテレビが台から落ちるなど、家中の家具が想像もしないほど動きました。タンスなどの大きな家具が倒れると、人が下敷きになる可能性がありとても危険なので、タンスや家具の補強にも気を付けています。

災害は実際に経験しないとその恐ろしさがわかりません。岡垣町では大きな災害は起きないだろうと過信せず、日ごろから危機感を持ってほしいと思います。私自身、今後も万が一に備え、最低限の準備を続けていきたいと思っています。



▲非常用持出袋と中身



▲タンスの転倒防止補強

一時的に停止しても生活できるように、最低でも3〜5日分程度の準備をしておく和良好的でしょう。高齢者や子ども、アレルギー体質の人は、避難所での配給食を食べられないこともあります。安心して食べられるように、家族に合わせた非常食を準備しましょう。

非常食は常に新鮮に

準備した非常食が無駄にならないように、定期的に賞味期限を確認しましょう。

また、通常購入する2倍の量の米や缶詰などを購入し、普段の食事などで使い、半分使ったら同じ量を買えば足すなどの工夫をすることで、無理なく常に新鮮なものを備蓄することができます。

「防災マップ」を使って 避難勧告などに備えよう

岡垣町からは、さまざまな方法で避難情報などを発信します。避難勧告などが発表されたらすぐに避難できるように、日ごろから「防災マップ」で住んでいる地域が災害想定区域に入っているかどうか、確認しておいてください。近くの避難所の場所や避難所へのルートなども確認しておきましょう。

町から皆さんへの情報発信手段などは、7ページで紹介しています。

災害が起きたときこそ

集結しよう、地域のちから

災害が起きたとき、被災者全員に救助の手が行き届くまでに時間がかかることが予想されます。そのようなときに力を発揮するのは、地域のちからなのです。

地域みんなで協力を

大規模災害が起きたとき、町は災害対策本部を設置し、消防署や警察、自衛隊など関係機関と協力しながら全力で被災者の救助活動などを行います。しかし、交通網や情報網の寸断などですぐに対応できないことも予想されます。こうした中で必要となるのが、地域のちからです。地域の皆さんの自主的な防災活動で、地域の被害を最小限に抑えることができます。岡垣町では現在、55の自治区のうち27の自治区で自主防災組織が設立され、防災意識を向上するためのさまざまな取り組みが行われています。

—防災意識の定着が 今後の課題です—



戸切白谷区
みやもとかずとし
区長 宮本和敏さん

もし災害が起きるとどうなるのか。地域の人たちがそれぞれで行動すると適切な行動や避難ができないなど、災害への対応に偏りが出るのではないかと。また情報共有が図れず、災害情報を把握できない人が出るのではないかと。このような問題に対応するため、戸切白谷区では平成26年9月に自主防災組織を立ち上げました。

立ち上げ当初、災害時に対応すべきことを役割分担し、防災訓練を計画していました。当日は雨天のため訓練は中止し講習会を行いました。あらかじめ災害を想定した役割分担をしておく、一人ひとりが取るべき行動が明確化され、広範囲にわたる漏れのない対応が可能になると思います。それ以降、大きな取り組みはまだ行っていませんが、今後は具体的な役割分担組織図の作成を進めていく予定です。

災害が起きたとき、スムーズに対応するためには防災訓練などを定期的に行い、一人ひとりの災害への意識を定着、向上させることが大切です。そのためには、今後どのように防災活動を進めていくかが課題となります。初めから大災害を想定した大がかりな訓練はできませんが、小さなグループで訓練を行うなど、区の中でできることから取り組んでいきたいと思っています。



▲戸切白谷区の講習会の様子

日ごろの訓練も大切

自主防災組織を設立した自治区では、災害を想定した訓練が日ごろから行われています。班ごとに役割分担をした避難訓練などを行うことで、災害時に取るべき行動が明確になり、実際に災害が起きたときに落ち着いて行動できるようになります。

いざというときのために一人ひとりが自主防災組織の必要性を理解し、積極的に活動して災害に強い地域をつくりましょう。



▲旭南区の防災訓練

隣近所で助け合うこと

災害が起きたときは、いくら事前に準備をしても慌ててしまいます。また、ひとりで行動することには不安が伴うものです。

日ごろから隣近所の人とコミュニケーションを図り、もしものときは、お互いに声をかけ合い、複数で避難しましょう。また、高齢者や小さな子ども、身体が不自由な人が早めに避難できるように、地域の皆さんで協力しましょう。

みんなで
取り組む！

地域の自主防災

— 自主防災組織の活動を支援します —

岡垣町では、災害に備えるため自主防災組織を立ち上げた自治会に対し、支援を行っています。これまでは設立後1年目のみ支援していましたが、平成27年度から2年目以降の活動に対しても支援するように内容を拡充しました。また、地域の防災リー

ダーを育成するため、防災士の資格取得に係る費用の3分の2を補助する支援も始めました。災害が発生したときに力を発揮できるように、日ごろから防災活動に取り組みましょう。

自主防災組織補助の内容

活動で必要となる防災機材などの購入に対し、補助金を交付します。

- 1年度あたり、1組織につき1回まで交付します
- 機材の購入前に申請してください
- 購入後は、積極的に防災活動に取り組んでください

交付回数	補助額
1回目	次のいずれか低い額 ■ 防災機材などの合計額 ■ 10万円
2回目以降	次のいずれか低い額 ■ 防災機材などの合計額の3分の2 ■ 3万5千円

対象となる防災機材などの例

次のような機材が補助金交付の対象となります。

区分	品名
情報収集・伝達用	ハンドマイク、携帯用無線機・受令機、携帯用ラジオ、腕章など
初期消火用	砂袋、街頭用消火器、可搬式小型動力ポンプ、水バケツなど
水防用	救命ボート、救命胴衣、ビニールシート、スコップ、土のう袋など
救出用	はしご、ハンマー、ロープ、チェーンソー、鉄パイプなど
救護用	担架、救急セット、毛布、組立式シャワー、簡易トイレなど
避難用	強力ライト、警報器具、投光器、発電機、燃料など
給食・給水用	こんろ、給水タンク、ろ水機、炊飯装置、配膳用食器など
訓練用	心肺蘇生訓練用人形、模擬消火訓練装置、視聴覚機器など



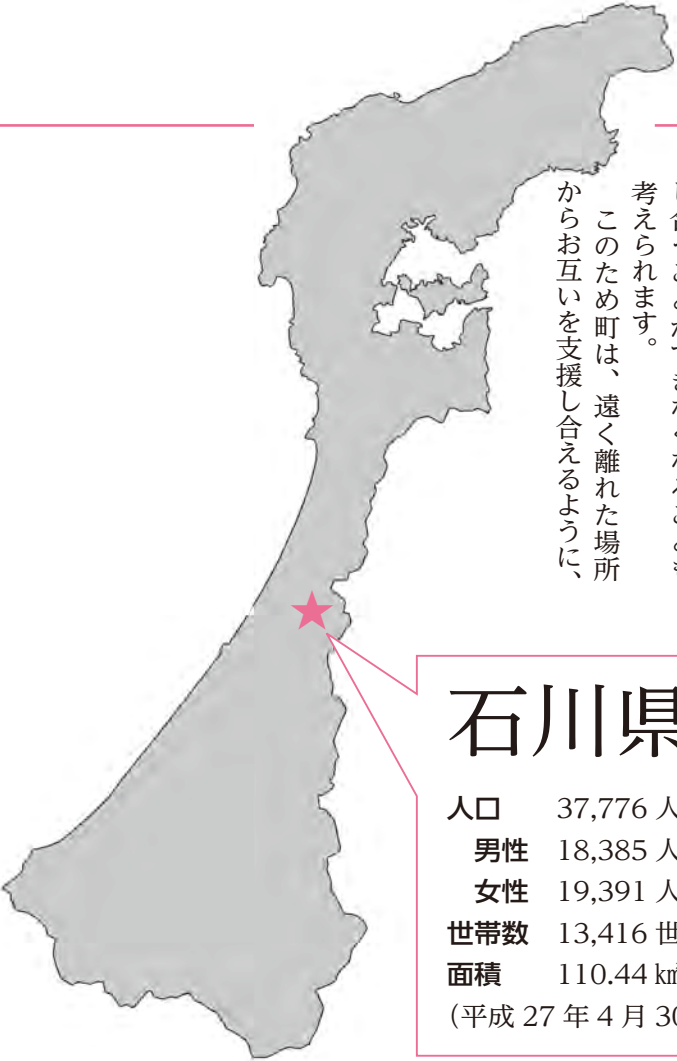
皆さんの命や大切なものを守るために

町も災害に備えています

他自治体との支援体制を整えています

災害が起きたとき、町がすべての被災者の救助や支援などを行うことが難しくなることが考えられます。このようなときに備えて、町は近隣市町村とお互いに支援する体制を整えています。しかし、大規模な災害が起きたときには、近隣市町村も同時に被災し、支援し合うことができなくなることも考えられます。

このため町は、遠く離れた場所からお互いを支援し合えるように、



石川県津幡町

人口 37,776 人
男性 18,385 人
女性 19,391 人
世帯数 13,416 世帯
面積 110.44 km²
(平成 27 年 4 月 30 日現在)



▲町章



▲津幡町・岡垣町災害時相互応援協定締結式の様子

平成24年3月に石川県津幡町と「災害時相互応援協定」を結びました。

遠隔地だからこそできる支援

近隣でさまざまな物資の不足などが発生する中、被災してない遠方の地域だからこそできる支援として、次のようなことが期待できます。

【支援の内容】

- ◆食料や飲料水、生活必需品などの提供
- ◆被災者の救助や救援、復旧に必要な職員の派遣
- ◆被災者の救出などに必要な物資の提供



このような体制で、災害が起きたときに他自治体と連携しながら被災者の救助や救援、町の復旧作業などをスムーズに行えるように備えています。

もしものときに備えて 訓練や新システムの導入に取り組んでいます

定期的な訓練

■岡垣町防災訓練

年に1回、ゲリラ豪雨などを想定し岡垣町防災訓練を行っています。訓練は、防災体制の向上を目指し、遠賀郡消防本部や自治区、陸上自衛隊小倉駐屯地など多くの関係団体と連携し、細かなシナリオを示さない訓練方法を採用しています。

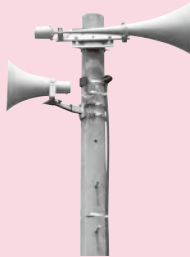


▲訓練の様子

■全国瞬時警報システム

(J-アラート)の訓練放送

年に数回、国と連携して緊急地震速報の訓練放送を行っています。皆さんもこの訓練放送で、緊急地震速報を聞いたときにあわてずに自分の身を守れるか確かめてください。



新システムの導入

無線システムの整備

さまざまな災害情報を迅速にお知らせするとともに地域の情報を身近に受信できる方法として、各世帯で無線方式により受信できる新たなシステム整備に向けた設計を進めています。

これは、以前から運用してきた有線放送設備が老朽化していることや新しい団地などでは、有線放送受信設備が設置されていない世帯が多くあることから、その対策として行うものです。



※写真はイメージです

災害発生時は

さまざまな手段で情報を発信します

インターネットを活用します

町公式ホームページや町公式フェイスブックで災害の状況や避難所情報などを発信します。

■町公式ホームページ

<http://www.town.okagaki.lg.jp/>



■町公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/okagaki-machi>



登録しよう！防災メール

県の情報発信メール「防災メール・まもるくん」では、地震や台風、大雨などの情報が発信されます。そのほか、日ごろから地域の防犯情報や高齢者などのはいかい、捜索情報なども配信されるので、登録(無料)しておくとう安心です。

■登録サイト

<http://www.bousai.pref.fukuoka.jp/mamorukun/>



災害用伝言ダイヤル「171」

災害が起き、電話がつながりにくいときは、災害用伝言ダイヤルで家族や友人の安否確認ができます。公衆電話や携帯電話からも利用できます。

■伝言を登録するとき

171↓1↓自分の電話番号

■伝言を聞くとき

171↓2↓相手の電話番号

※電話番号は市外局番から入力

このほかにも、緊急防災無線や有線放送、緊急速報エリアメールなどを通じて情報を発信します。災害が起きたときまたは、災害が発生する恐れがあるときは、さまざまな手段で少しでも多くの情報を収集してください。また、避難勧告や避難指示などが発表されたときは、それぞれの段階に応じて安全な場所に避難するなど、落ち着いて適切な行動をとりましょう。

問い合わせ 地域づくり課へ